第 17 回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会レポート

函館ラ・サール高等学校ラグビー部
顧問　　荒木　竜平

３月３１日　第一節　京都成章戦　Ｃグラウンド

一つ一つのすべきことを終えたがゆえの立ち上がりの良さであった。相手の陣地で戦っている以上、隙間を取らせない埋め方があった。ＦＷも前へ出る足を止めない。すうっと浮き足立つ京都の高校 2 年生たちのミスを誘発させるものの、半ばより経験値の低いＢＫの外側を突かれる。波の立つプールのように流れを作るのが上手い。攻め立てる場面も観たがワントライも奪えず第一節を終えた。

４月　１日　第二節　仙台育英戦　Ａグラウンド

原初的な人間の欲求を欠いた一試合。緊張や気負いにその答えは求められない。敵軍の穴や落ち度を目の当たりにしながらも、勝手に後退していった。もはや戦いとは言えない。システムを意識する余り、内から湧き上がるものに基づかなかった結果である。前半、ＢＫリーダーのシンビン、ゲームキャプテンの負傷退場により、一人ひとりに芽生えた主体によってチームがまとまったのは唯一の収穫である。

４月　３日　第三節　東福岡戦　Ｂグラウンド

キック、密集戦を封印して挑んできた相手に大量失点を許すものの、今後の方向性が見えてきた一戦でもある。こういうゲームにこそ本性は現れる。当方の選手たちはネームバリューに鈍感であった、否、鈍感なふりをしてそのままの姿で戦った。だから精神状態は悪くない、フィジカルは負けていない。ただ全国の舞台で戦うことを目標としているチームにとっては接点が少なすぎた。根源的なスポーツの在り方を問う一試合。

以上